様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第１面）

産業廃棄物処理計画書

令和７年６月２６日

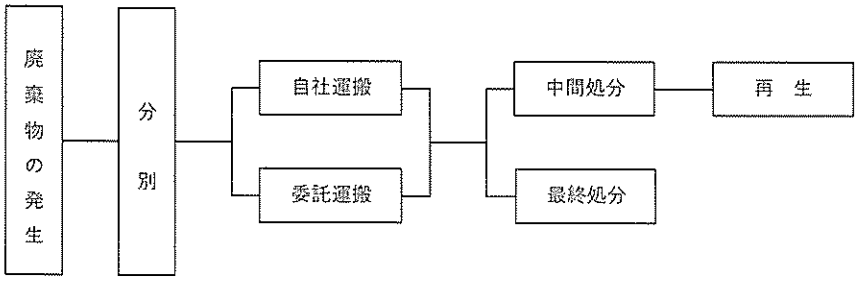
高松市長　大西　秀人　殿

提出者
住所　香川県高松市林町148-20
氏名　エクシオグループ株式会社
執行役員 四国支店長　大嶽　明宏
電話番号　０８７－８６５－８００５

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第９項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	エクシオグループ株式会社 四国支店
事業場の所在地	香川県高松市林町148-20
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

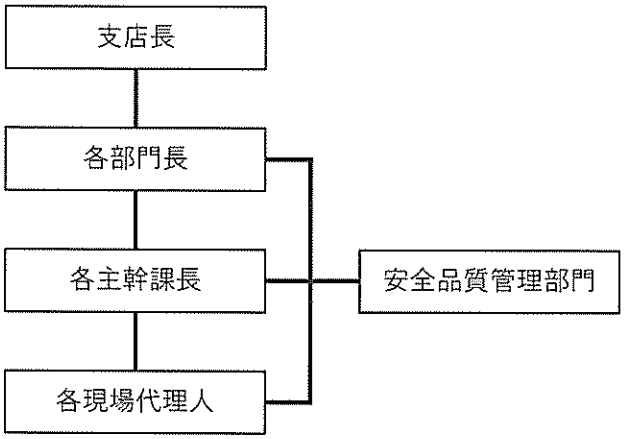
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	設備工事業
②事業の規模	元請完成工事高　8,333百万円（前年度実績）
③従業員数	79名（2025.3.31現在）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	

（日本産業規格　Ａ列４番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	※別紙に記載	
	排　出　量	1,078.744 t	t
	（これまでに実施した取組） ・施工部門を中心に排出抑制の指導 ・産業廃棄物排出量報告の資料作成時は細かく区分して情報記入		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	※別紙に記載	
	排　出　量	970.260 t	t
	（今後実施する予定の取組） 請負工事量の増加に伴い、産廃量も増加するが、廃棄物は可能な限り分別した上でさらに積極的なリサイクルを実施。 （特に従来から取り組んでいるアスコン・コンクリート塊や廃プラスチック）その為にもリサイクルできる業者は慎重に選定予定		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 法的に基づいた厳重区分を施工部門中心に推進
③ 計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 昨今の社会情勢から廃プラは貴重な資源であることは明らかで、可能な限りリサイクルを実施予定（アスコンがらも然り）。また事業活動においてプラスチック製品の使用が回避できないか検討もしたい。

<table>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="4">① 現状</td><td colspan="3">【前年度（2024年度）実績】なし</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら再生利用を行った
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら再生利用を行う
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="5">① 現状</td><td colspan="3">【前年度（2024年度）実績】なし</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら熱回収を行った
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>自ら中間処理により減量した
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら熱回収を行う
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>自ら中間処理により減量する
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="4">① 現状</td><td colspan="3">【前年度（2024年度）実績】なし</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら埋立処分又は
海洋投入処分を行った
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら埋立処分又は
海洋投入処分を行う
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
<tr><td colspan="4">産業廃棄物の処理の委託に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="8">① 現状</td><td colspan="3">【前年度（2023年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>※別紙に記載</td><td></td></tr>
<tr><td>全処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>優良認定処理業者への
処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>再生利用業者への
処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者への
処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者以外の
熱回収を行う業者への
処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）
・優良認定処理業者の採用</td></tr>
</table>

	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	※別紙に記載	
		全処理委託量	970.260 t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	41.100 t	t
		再生利用業者への処理委託量	929.160 t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
		（今後実施する予定の取組） ・優良認定処理業者の積極的採用 ・場合によっては業者選定の見直し		
※事務処理欄				

備考

1　前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに１枚作成すること。

2　当該年度の６月30日までに提出すること。

3　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4　「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

5　「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第６条の11第２号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の３の３第１項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

6　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が３以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

7　※欄は記入しないこと。

1．【前年度（令和6年度）実績】産業廃棄物の種類別排出量

（単位：ｔ）

	産業廃棄物の種類													
	コンクリート殻	アスコン殻	廃プラスチック類	金属くず	紙くず	木くず	その他がれき	汚泥	混合	石綿	ガラス・陶磁器くず	水銀使用製品産業廃棄物	廃油	
排出量	441.600	449.900	7.870	71.710	0.600	3.900	0.330	31.000	70.016	0.038	1.400	0.105	0.275	
自ら再生利用行う産業廃棄物の量														
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量														
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量														
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量														
全処理委託量	441.600	449.900	7.870	71.710	0.600	3.900	0.330	31.000	70.016	0.038	1.400	0.105	0.275	
優良認定処理業者への処理委託量									34.597		1.200		0.275	
再生利用業者への処理委託量	441.600	449.900	7.870	71.710	0.600	3.900	0.330	31.000	35.419	0.038	0.200	0.105	0.000	
認定熱回収業者への処理委託量														
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量														
													総排出量	1,078.744

2．【目標（令和7年度）】産業廃棄物の種類別排出量

（単位：ｔ）

	産業廃棄物の種類													
	コンクリート殻	アスコン殻	廃プラスチック類	金属くず	紙くず	木くず	その他がれき	汚泥	混合	石綿	ガラス・陶磁器くず	水銀使用製品産業廃棄物	廃油	
排出量	395.000	410.000	6.000	60.000	1.000	2.000	0.100	30.000	65.000	0.010	1.000	0.050	0.100	
自ら再生利用行う産業廃棄物の量														
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量														
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量														
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量														
全処理委託量	395.000	410.000	6.000	60.000	1.000	2.000	0.100	30.000	65.000	0.010	1.000	0.050	0.100	
優良認定処理業者への処理委託量									40.000		1.000		0.100	
再生利用業者への処理委託量	395.000	410.000	6.000	60.000	1.000	2.000	0.100	30.000	25.000	0.010	0.000	0.050	0.000	
認定熱回収業者への処理委託量														
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量														
													総排出量	970.260